



掛合中だより

令和6年度 2月号
雲南市立掛合中学校
2025. 2. 21 発行
文責 難波 順子



学校教育目標

ふるさとを愛し 自他を大切にしながら たくましく未来を切り拓く生徒の育成

<https://shimane-school.net/unnan/kakeya-chu/>

校庭の「陽光桜」のこと

本校の校庭にあるこの桜は、県内でも珍しい鮮やかなピンク色です。毎年4月には、生徒達の記念撮影の場となっています。学校の桜といえば、薄いピンク色のソメイヨシノ。

なぜ、濃い色の桜が植わっているのか。ある時、その答えとなる古いメモを校長室で見つけました。何代か前の校長先生のお便りの一部でしょうか。内容は以下のとおりです。



「この桜は、愛媛県温泉郡川内町の高岡正明さんが、『四国と本州が架け橋によって地続きになったのは竹下総理大臣のおかげであって四国に住む者は竹下総理のご恩を忘れるべきではないと思っている。総理出身の掛合町との縁を大切にするため自分が育てた幼木を送るのでしかるべき場所に植樹をしていただきたい。』との願いが秘められています。植樹は、景山道隆先生と当時の生徒諸君によって行われました。」

この桜は、竹下総理が瀬戸大橋開通に関わられたことに起因するものだったということがわかりました。更にこのメモをもとに、所在地と名前をインターネットで検索をしました。すると、高岡正明さんは、「伯方の塩」で有名な愛媛県の伯方塩業株式会社 初代社長であったこと、そして、掛合町に贈られた桜の幼木は、社長の高岡氏が自らの手で25年の歳月をかけて品種開発された桜であったことがわかりました。品種の名前は、「陽光桜」です。なぜ「伯方の塩」の社長が長い年月をかけて「陽光桜」という品種を作られたのか。それについても検索した「陽光桜『鎮魂と平和』交流協会」のホームページで次のように書いてありました(要約)。

かつて青年学校の教師であった高岡氏は戦時中に多くの教え子を戦地へ送り、死なせてしまったという後悔や自責の念にかられた。戦死した生徒たちの鎮魂を願い、「また桜の木の下で会おう」と誓った約束を守るため、生徒たちが戦地として赴いた寒い国でも暑い国でも育つようと、丈夫で病気にも強い濃いピンク色の品種を、私財を投げ打ち、25年の歳月をかけて開発した。名前を「陽光桜」と名付けた。

以来、世界各国・日本国内に2万本もの桜の苗を無償で贈る活動を続けている。

このようなエピソードを経て、掛合町にも陽光桜が届けられました。高岡正明氏の思いは、息子さんである照海氏に引き継がれ、現在も平和への願いや地域活性を目的として、陽光桜を国内外へ贈り続けておられます。この逸話は、2015年に映画にもなっており、先日DVDで拝見しました。高岡正明氏は笹野高史さんが、息子の照海氏は、的場浩二さんが演じておられます。タイトルはその名も「陽光桜」です。正明氏の桜を完成させようとする強い信念や平和への思い、それを支える家族や周りの方の温かさが感じられるとても良い映画でした。

今年度、ローソン緑の募金「学校環境モデル事業」に申請し、校地の整備と、新しい陽光桜の追加植樹を計画しました。ゆかりのある陽光桜の苗を是非、高岡さんのところから購入させていただきたいと連絡をしたら、「寄贈しますので、どうぞ植えてください。」と、この度も無償で本校に届けていただきました。

平和への願いを強い信念で行動に移された高岡正明氏、瀬戸大橋開通に関わられた竹下 登首相、そして現在もこの陽光桜を国内外に寄贈し平和を訴え続けておられる高岡照海氏のことを、感謝の気持ちを込めて記しておきます。生徒たちにも集会で紹介をしました。

4月の初め、この濃いピンクの桜の花を地域の皆様も是非、改めて見に来ていただければと思います。

雲南市が進める部活動地域移行（地域展開）

雲南市では、国が進める中学校部活動の地域移行モデル事業を受け、令和5年度より、休日の活動を他校との合同練習や地域指導者による活動とする事業を行っています。地域展開することで、少子化が進行



加茂中学校で合同練習

しても将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむ機会を確保することを目的としています。地域のクラブ化も進めていく方向です。現在、雲南市の部活動地域展開のガイドラインを策定されているところです。今年度休日の部活動の地域展開の日は10日程度、来年度は20日が予定されており、数年後には全ての休日で、更に数年後、平日も移行していく方向です。今年度、本校の学校評価には、保護者の方より人数減による部活動の再編等の検討を望む声がありましたが、市の部活動地域展開が進められている中では、今のところ部活動は現状のままでと考えています。

今後、市の部活動地域展開のガイドラインや参加方法、課題の解消に向けた動きなど、わかり次第保護者の皆様にお知らせします。

雪の日の昼休み

今年は近年になく雪の日が多くなりました。2月7日早朝に山沿いで大雪警報が発表され、今学期2度目の臨時休校となりました。もうしばらく警戒が必要です。

大雪にもめげず、昼休みの生徒たちは外で元気に雪遊びをしており、楽しそうな声があちこちから聞こえてきます。



学習公開日（地域課題探究学習発表会） ご来校ありがとうございました。

2月1日（土）は、授業公開日として1年生から3年生まで、1年間の地域課題探究学習のまとめの発表会を行いました。保護者の方にもご意見やアドバイスをいただくなど、大変有意義な時間となりました。併せて、学校評価委員5名の方々にも授業を見ていただきました。午後からは、新入生説明会を行い、教職員や生徒会の方から中学校の生活等について説明をさせていただきました。保護者の方と生徒の感想を紹介します。ありがとうございました。



1年生



2年生

【保護者】●一人一人よく調べていて感心しました。1～3年生までしっかり学んできたことが伝わってきました。発表も堂々としていて成長を感じました。それぞれの考えや思いが詰まった発表だったと思います。

●3年間の集大成としてよくまとめられていたと思います。大人が気づかなかったことやわかっても現実ばかり考えて動けないところがしっかり盛り込まれていて、耳が痛いことでもあります。本当なら、あと一歩その先も考えて、市や町へもっと積極的にアピールしてほしかったです。すだちハチミツジュース気に入っています。

【生徒】●3年間何度も失敗する中で、何度も改善してより良いものを作れるように努力してきました。その中で、試行錯誤し、努力する力を身に付けることができたと思います。（中略）高校では生命地域学を通して、より地域と密接に関わり活動をしていきます。この3年間で学んできたことを十二分に発揮して、将来につながるができるように試行錯誤しながら努力していきます。

●（要約）私はこの3年間の探究学習をとおして、つなげて考える力や先を見通す力をつけることができました。1年生の時は、何が正解なのか、そもそも正解なんてあるのか、大人目線とはどういうことなのか、全くわかりませんでした。2年生の修学旅行をとおして、掛合とは違った地域での活動を学んで、正解がないということに気づきました。自分なりのアイデアを出すことは大変で時間がかかったけれど、悩んだあの時間が「探究」をする上で大切なものだったんだと思っています。高校に行っても探究活動はずっと続いていくと思います。形は違って、ああでもない、こうでもない悩んで自分なりの答えを導き出そうとする気持ちは、これからもずっと大切にしていきたいと思っています。



3年生